

卒業・就職にむけて
～はさみのよりよい使い方の習得を通して～

☒ 作業療法士の指導助言より

2024年1月15日 高等部

1. 実態

- ・動作性は低く言語性は高い。
- ・手指操作では※が苦手である。

※拭く活動（濡れた道具を拭く活動では拭き残しが多く、水気を最後まで取るのが難しい）

ボタンをとめる、ひもを結ぶなど

- ・注意が散漫になることがあり、活動の途中で別の活動に取り組むことがある。
- ・手持ち無沙汰になると爪や指先の皮をかむ癖があり、出血することもある。
- ・はさみを使用する作業では、紙や牛乳パックなどを細かく切ることができる。
- ・就業体験でのねぎの根っこ切り作業では、上手く切れず不良品をだすことが多かった。

2. 相談内容

○主訴

はさみの使い方の改善

○指導場面

・作業学習(紙工芸), 生活単元学習

○指導内容

・はさみの使用



指導・助言前のはさみの使用の実態

(6月20日)

- ・手元に注目することが難しい
- ・切った紙の形やサイズが定まらない

3.1 回目目の助言内容

①切る位置に印を付ける

→手元に注目し,切る箇所を意識する練習。

②切った紙を確認し,○・×のトレイに分ける

→自分で選別をする練習。

→切った紙のサイズがそろうようになれば取り組む。

→○トレイに分ける紙の数が増えていくことで自信につながる。

(R5年6月26日OT)

切る位置に印をつけた紙

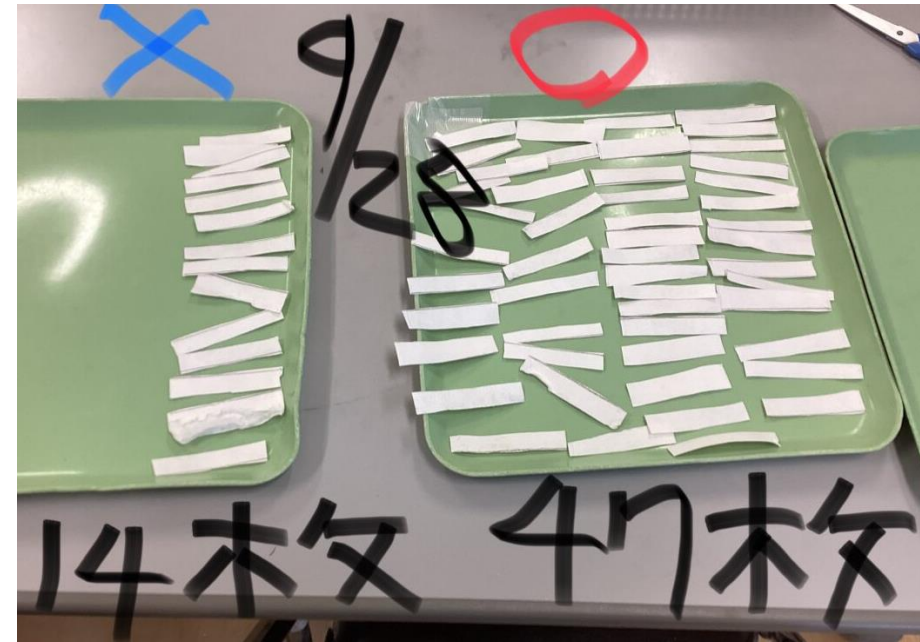
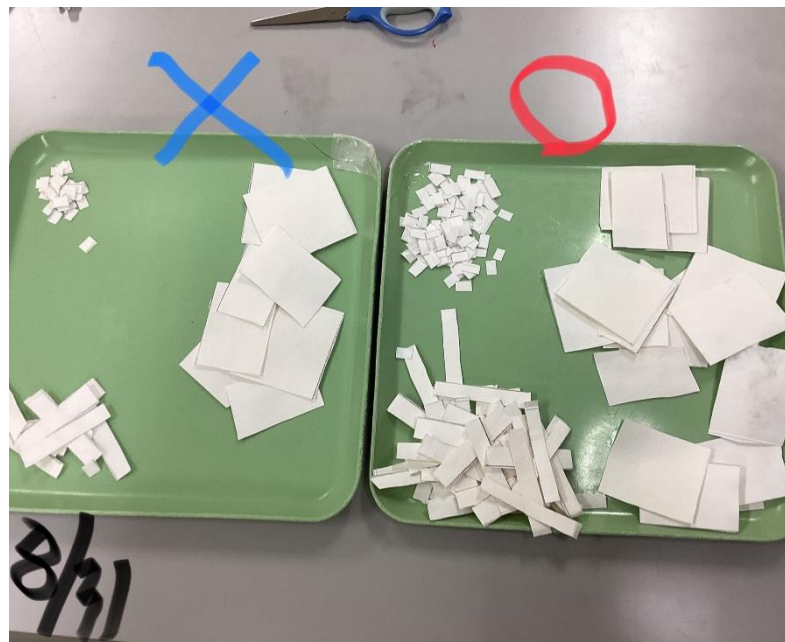
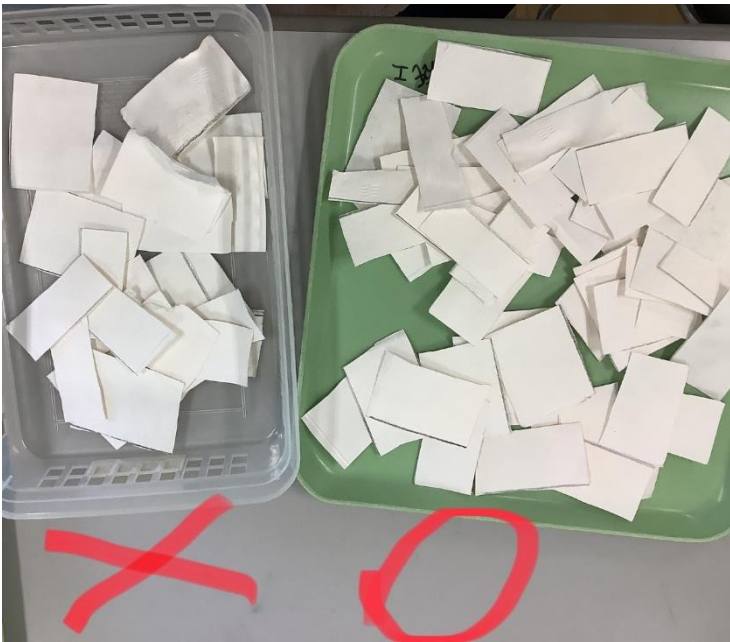


※紙漉で使用する牛乳パック

切った紙を確認し、○・×のトレイに分ける課題

線からはみ出していない → ○のトレイ
線からはみ出している → ×のトレイ

分けた後本人がipadで撮影し写真の編集機能を使用して記録を残した。



はさみの使用の実態(7月13日)

- ・紙の線を見ながら切ることができるようになってきた
- ・切った紙を確認し, ○・×のトレイに分ける課題にも取り組んでいる



はさみの使用の実態(10月31日)

- ・7月よりも長時間手元をみて作業できるようになった。
- ・切る紙のサイズ・形が整うようになってきた。
- ・持つ位置(左手)にまだばらつきがある。



4.2回目の助言内容

・線に沿って切るのはスムーズになってきている

①「近くを持って」と言葉かけをする

→持つ位置(左手)のばらつきを改善

②「どこを持ったらいい?」と言葉かけをする

→本人に考えさせる

→①が意識できるようになったら「どこを持ったらいい?」の言葉かけで促し

※疲れにともなって注意がそれ, 左手の位置が定まらなくなっている

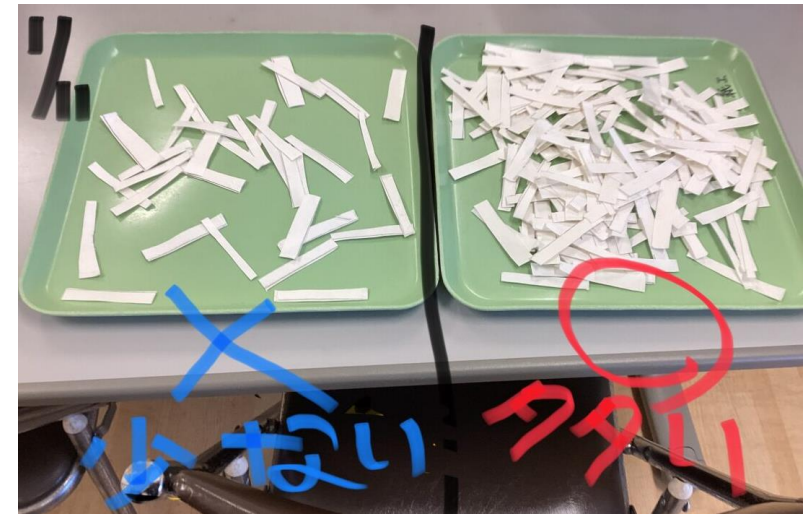
(R5年11月27日OT)

5. 現在の状況

- ・切る位置を見ながらハサミを使用できるようになった。



- ・切った紙を確認し○・×のトレイに分ける課題では
○トレイに分ける紙の数が増え
4分の3以上が該当するようになった。



- ・疲れにともなって注意がそれ、左手の位置が定まらなくなった際には
「どこを持つ？」の言葉かけを受けて近くを持つことができるようになってきている。

6. 今後の指導についての助言

- 牛乳パックだけではなく、
コピー用紙などの紙の厚みが薄い紙を切る
曲線を切ることにも取り組んでいる。

 - アイロンの使用について
 - ① 新聞紙を使用して右手で押さえる・左手で破っていく練習

 - ② 電源の入っていない状態のアイロンで練習

 - ③ 電源の入ったアイロンで練習
- ※状況によって見守りが必要。

